

クラスター弾使用「強く反対」

カンボジア高官

ロシアのウクライナ侵攻で使用され、不発弾で民間人が巻き込まれる恐れが高いことから、改めてその「非人道性」に注目が集ま



フノンペン市内で取材に応じるカンボジア地雷対策センター(CMAC)のヘン・ラタナ所長(7月24日)(時事)

っているクラスター弾。約50年前に戦火に見舞われたカンボジアは、今もその被害に苦しみ続けています。政府機関のカンボジア地雷対策センター(CMAC)のヘン・ラタナ所長は「将来世代にまで脅威が続く



米軍3000万個拡散 50年にわたり被害

クラスター弾の使用には強く反対する」と訴えまし

た。フノンペン市内で7月24日、時事通信の取材に応じました。カンボジアは1970年代前半、ベトナム戦争に関連して米軍の侵攻を受けました。内戦も続き、

終結後の92年に地雷や不発

弾除去の専門機関としてCMACが設立されました。

ヘン所長によると、米軍の空爆や砲撃で約3000万個のクラスター弾の子爆弾がまき散らされたとみられます。うち約25%が不発弾として残ったと推定されますが、CMACが発見し

破壊したのは約50万個にとどまるといいます。

ヘン所長は「職員は毎日のように不発弾を発見している。これまでに多数の死者が出ており、50年たっ

ても脅威を感じている」と話しました。

米政府は今年7月、ウクライナにクラスター弾を供与すると発表しました。既に使っていたとみられるロシアに加え、ウクライナも使用を始めたもようです。

これを受け、カンボジアのフン・セン首相はSNSで「ロシアの占領地で使用されれば、ウクライナ国民にとって何十年も何百年も最大の脅威となる。わが国は痛ましい経験をしてい

クラスター弾 大型の容器に格納された多数の子爆弾が広範囲にはさまれる殺傷力の高い兵器。戦闘終了後も不発弾で子どもを含む多数の民間人が犠牲になっているため、非人道的だとして2008年に製造や使用を禁じる国際条約が採択されました。日本を含め100カ国以上が参加していますが、米国やロシア、ウクライナは加盟していません。(時事)

る」と不使用を呼び掛けました。ヘン所長も「国際的なルールで認められていない兵器は使うべきではない。平和はクラスター弾によってもたらされるわけではない」と強調しました。(フノンペン)時事)